

平成30年度 三和地域協議会事業計画

1, はじめに

三和地域では引き続き人口減少と高齢化が進むなか、来年には小中一貫校「三和学園」がスタートします。また、三和地域内で唯一のスーパーマーケットが撤退するなど、住み続けるための状況は厳しさをましてきています。世帯減や空き家の増加による自治力の低下など、地域コミュニティの維持存続が、ますます大きな課題となってきました。

しかし、懸案であった工業団地に次々と新たな企業の立地が決まるなど、明るい話題も出てきています。また、平成30年度は、福知山市自治基本条例が施行され、地域協議会の設立が全市的に取り込まれることになっています。

このようななかで4年目を迎える三和地域協議会は、生活交通や買い物環境の確保、子育て支援、定住促進などを中心として、住民の生活を守る活動に取り組みたいと考えています。

生活に必要な機能が三和支所周辺に集約されてきた状況のなか、「みわひまわりライド」の機能を有効に活用し、引き続き「暮らしやすい三和地域」「子育て支援が充実した三和地域」「新たな活力が生まれる三和地域」などを目指して、各部会を中心に活動を進めていきます。

また、新たな学校の開校に向けての課題や跡地活用、また地域自治機能の衰退問題など、行政、住民と協働して様々な活動を進めていきたいと考えています。

2, 全体事業

一昨年から実施している「子育て講演会」のように、三和地域全体の地域振興に必要な事業を、様々な団体等と共同することも含め、取り組んでいきます。

さらに、定着した行事となりつつある「みわこどもまつり」のほか、地域全体で取り組む「三和ふれあいフェスティバル」「みわ夏まつり」等、住民活動のよりどころとなる行事を大切にしながら、新たに地域住民の知恵や元気を引き出せるような取り組みを、実施していきたいと考えています。

3, 三和地域公共交通空白地有償運送事業（みわ ひまわり ライド）

運行2年目を向かえる「みわ ひまわり ライド」は、三和地域住民の生活基盤を支える移動交通手段として重要な役割を担うものであり、事務所機能の維持・地域住民の理解と協力・行政の支援など事業を健全に継続させる仕組みづくりとともに安全な旅客運送を目指します。

また年度当初には、市バスの運行を補完する「土曜日運行」や日常の買い物を支援する「PLANT（プラント）－3買い物便」など運行体制の強化・拡充を図ります。

4, 常任委員会

◎ 常任委員会

三和地域協議会の活動全体を考え執行していく機関として定期的を開催し、地域の求める課題に敏速かつ的確に対応できるよう努めます。また、行政機関や公立大学、各種団体との連携を密にし、効果的で効率的な事業運営をめざします。

5, 部会活動

◎ 地域活力部会

「みわこどもまつり」は今年度も継続して開催します。地域交流カフェ「みわふれあいカフェ」は引き続き毎週金曜日に開催し、出張カフェも行う予定です。また、三和音頭については、イベントへの出演を継続し、地域への浸透を図ります。さらに、子育て講演会も開催する予定です。

○みわこどもまつり

今年は6月に開催します。会場規模は変わりませんが、新たな体験ブースを増やすなど、さらにパワーアップしたこどもまつりを作り上げます。

○みわふれあいカフェ

冬季休業を終え、平成30年4月から再開しています。今年度も月1回は珈琲工房カリビアンさんのオリジナルコーヒーを出すほか、地域へ出張カフェを行うことも検討しています。

○三和音頭の普及

今年度も町内イベントに参加し、依頼いただければ踊りを教えに行くなど、三和音頭の普及に努めます。

○講演会等の開催

12月に、親子向けの運動遊び（体を使った遊び）についての講演会を開催する予定です。

○ラジオ番組での広報活動

今年度も継続して、4月の放送からラジオ番組で三和地域のアピール活動を行っていく予定です。

○その他

三和地域をより元気にするための取り組みを、部会で検討していく予定です。

◎ 生活基盤部会

前年度から話し合ってきた地域住民自治の維持・存続について、現状を把握し、対策を考えるアンケートを平成30年度前半に実施する予定です。自治会の協力を得て、自治の第一線に立つ各組長にお願いしたいと思っています。

また、住み続けられる三和を維持するため、生活拠点機能を守る取り組みを「三和地域生活拠点機能維持検討委員会」と連携して進めます。

今年2月、地域で唯一のスーパーマーケット・三ツ丸ストア三和店が閉店とな

り、買い物の不便さが増しています。三和中心部の千束地区は、日常生活を支える拠点としての機能を備えていますが、そのエリアから機能の一角が失われる残念な結果となりました。

少子高齢化、過疎化の中で住民の日々の暮らしを維持していくために地域として何が必要で、どう守っていくか。住民と共に考え、市にも要望していきます。

○住民自治を考えるアンケートの実施

アンケートでは、自治会各組の役員確保の状況や、組内の空き家状況、移住者の受け入れ、組の共同作業や自治会での組の役割などについて聞く予定です。

対象は組長。自治会長については市が同様のアンケートを行っていますので、それを参考にしたいと思います。

○三和地域の生活拠点機能を守る取り組みを推進

地域の中心である千束地区には、市役所三和支所や金融機関、医療・福祉施設など、住民の日常の暮らしを支える機能が一応そろっています。来年4月には小中一貫校の三和学園も開校します。一方で、30年以上続いたスーパーが撤退し、昨年末には三和地域で唯一のガソリンスタンドが無くなりました。

三和地域生活拠点機能維持検討委員会が、地域内で買い物が可能な商業施設の立地や、有償運送「みわひまわりライド」の「スーパーセンタープラント3」への運行を市に要望していますが、当部会でも検討委員会と連携して、地域の生活を支える拠点づくりに努めます。工場立地が進む三和の工業団地との交流も必要と考えます。

◎ 定住促進・情報発信部会

三和町内各自治会長にお願いしてご提出頂いた「空き家調査」に基づき、当該空き家の所在地を訪れて建物の構造や状態、立地環境等について目視による調査を実施。その結果を受けて三和町内全域の空き家マップの作成に取り組み、当町への移住希望者の要望等に沿う空き家を手早く現地案内できる態勢の確立を目指したい。また、これと並行する形で前年度から取り組んでいる移住希望者を空き家に案内する「空き家ツアー」の充実、強化を図りたいと思っています。

また、地域の自治会長会や諸団体と協議しながら、国府や市の有利な制度の活用や導入について、検討を進めていきたいと考えています。

併せて、平成27年度から開催している移住者交流会についても、移住者のみなさんの思いを尊重しながら開催していきたいと思っています。

6. 拠点地域に新たな商業施設の誘致を進める事業

「生活拠点機能維持検討委員会」を中心に、誰もが気軽に地域内で買い物ができるように、三和支所や地域内の諸団体と連携・協働して新たな商業施設の誘致に取り組めます。

7, 学校統合に伴う地域の取り組みについて情報交換・連携を進める事業

平成31年4月に開校する「三和学園」については、三和学園設立準備委員会において、最終年度として要望事項に基づき整備が進められます。

具体的には、開校に向けた施設整備やスクールバスのルートの決定等が行われ、平行して菟原小学校と細見小学校においては、永い歴史に幕を下ろす閉校記念事業が進められます。

協議会では、引き続き準備委員会に参画し、地域の公共交通のあり方や学園の周辺整備、旧川合小学校を含めた閉校後の学校施設の跡地活用等、三和地域全体の課題として引き続き協議に加わっていきます。

8, 地域住民活動支援事業

さまざまな地域振興事業や、三和地域の維持存続を図り暮らす人が元気で過ごせるための活動をする団体や地域を支援します。また、地域活動を始めたいという人の相談をうけたり、各種の支援制度などについてアドバイスし、住民活動の活発化を図ります。

9, 広報紙「みわを元気に」の発行

定期的に広報紙を発行し、地域における住民活動情報の発信と協議会活動の理解促進に努めます。

10, その他の事業

その他、三和地域の存続発展と、地域住民の生活改善、福祉向上につながる事業に取り組みます。